

副作用予防、緩和に有効

おくちの相談室

【問い】大腸がんになり、これから抗がん剤の注射治療が始まります。主治医から歯医者を受診しておくように言われましたが、お口について困っていることはなく、むし歯や歯の痛みもありません。受診する必要はあるのでしょうか。（長崎市、54歳男性）

【答え】がんになって、「口を気にしている余裕はない！」と思われるかもしれませんが、しかし、口の中をきれいに保つ「口腔ケア」は、がん治療による副作用の発症率を下げるのが分かっています。このため主治医の先生も歯科受診を勧めているのです。

治療が終了しても口の中の副作用が続くことがあります。がん治療（化学療法）中に出現する一般的な口の中の副作用の発症時期は、治療後7〜12日目に多く、口の粘膜の表面が赤くなり、その粘膜が剥がれやすくなって潰瘍ができます。副作用の発症頻度は、化学療法を受ける患者さんで約40%、造血幹細胞移植で約80%、口腔領域が照射野に入る放射線治療では100%といわれているのです（国立がん研究センター資料）。

残念ながら、がんについては副作用がゼロという治療法はありません。治療中、口内炎や口腔乾燥など口の中に現れる症状も多く、とてもつらい症状の一つとされています。症状の度合いによっては口から水分・食事を取ることが困難になります。栄養状態の悪化が全身状態の低下や副作用の悪化を引き起こし、予定通りに必要な治療が継続できなくなる場合もあります。また、治療の種類によっては、

しかし、口の中を清潔に保つことで、発症を少しでも減らしたり、症状を緩和したりすることにつながります。早くいつものと変わらないような状態にすることが可能です。従って、むし歯や歯周病で歯科治療が必要となった場合、がん治療の主治医と歯科医師との連携はかせません。ぜひ歯科を受診して、治療をスムーズに進めてください。もちろん健康に不安がない方にも、定期的にかかりつけ歯科医院を受診しておくことをお勧めします。

質問をどうぞ

歯と口の健康に関する質問を受け付けます。県歯科医師会の先生方が回答します（直接本人に回答はしません）。症状などを分かりやすくまとめ、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒8552-8001、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「お口の相談室」係に送ってください。県歯科医師会のホームページは「8020ながさき」で検索できますので参考にしてください。

がん治療前の歯科受診

回答者 野田さわか  
長崎市新地町  
長崎みなとメディカル  
センター 歯科医師

